

2014年6月10日(火) 17:30-20:30

主催：日本建築学会関東支部

会場：建築会館会議室（東京都港区芝 5-26-20 tel.:03-3456-2051）

定員：60名 ※申込先着順

2014年度日本建築学会関東支部シンポジウム

使い続けるためのデザイン そのII

— 大多喜町役場の再生および改修設計のプロセスを検証する —



photos by Katsuya Natsume

大多喜町役場（1959年／設計・今井兼次）の保存・活用に関する一連の取り組みに対して、2013年度の「ユネスコ文化遺産保全のためのアジア太平洋遺産賞（功績賞）」が贈呈された。大多喜町役場の保存活動をくわしく見てみると、それが従来の保存運動とは一線を画したものであることがわかる。関係者は保存要望書の提出という手段を用いず、施設の老朽化に直面した町役場に“寄り添う”かのようにさまざまな可能性を模索、提言し、当事者と信頼関係を築いていくことで建物を残していく方法をとった。公開コンペという、時間とエネルギーのかかる方法をあえて選択し、その結果選定された建築家はオリジナルの建物の価値に敬意を払いながら、旧庁舎の再生デザインと新庁舎の設計を同時に進め両者を見事に結びつけた。保存活動に対する理解のあり方、また再生・活用デザインにおけるオーセンティシティの考え方において、今後のこの分野の活動に大きな示唆を与えてくれる事例のひとつと言える。

本シンポジウムでは、大多喜町役場の保存活動に関わった方々をお招きし、その経緯や問題意識についてうかがうとともに、一連のプロセスがもつ意義や今後に向けての可能性について討議していきたい。また、改修設計をたんなる修復というのではなく、現代の建築デザインにとって無視することのできない課題のひとつとしてとらえ、建築家がこの問題にどのように取り組んでいけばよいか、この点についても議論を開いていければと思う。

□ 参加費：会員 1,000円 会員外 1,500円 学生 500円

□ 申込方法：日本建築学会関東支部のホームページよりお申し込みください。

≪ プログラム ≫

1. 主旨説明（17:30～17:40）

田所辰之助（日本大学）

2. 各論発表（17:40～19:10）

1) 城下町に現れた現代建築の継承

— これからの歴史ある建物の再生に向けて

金出ミチル（長岡造形大学）

2) 大多喜町役場はなぜ壊されなかったか

— 保存要望書に頼らない地域の建築家の取り組み

夏目勝也（夏目設計事務所）

3) 大多喜町役場の設計について

千葉学（東京大学）

3. パネル・ディスカッション（19:15～20:30）

「使い続けるためのデザイン」はいかにして可能となるか

パネリスト：各論発表者

司会：田所辰之助

□ 問合せ先：日本建築学会関東支部事務局 森脇

E-mail: moriwaki@aij.or.jp

Tel: 03-3456-2050

<http://kanto.aij.or.jp/>